Society 6.0

あるいは幸運な人間の世界

2022 年度　大阪府立布施北高等学校　演劇部

〇登場人物

ジョン	ロボット技師。
カレン	世界初の、感情を持ったロボット。

作：巽大貴

現代（2022 年）は Society 4.0 の段階である。狩猟社会（1.0）、農耕社会（2.0）、工業社会（3.0）、情報社会（4.0）と進んできた。そして未来は、仮想空間と現実空間が高度に融合したものになると言われ、日本政府は Society 5.0 という概念を打ち出した。
それでは、さらにその未来、Society 6.0 はどんな社会になるのか？

時：23 世紀の初夏
場：世界のどこかの山

舞台上は、中央に腰掛けがある。上手前方にレンガ造りの壁がある。

I

幕が開く。照明と同時に山の環境音が突然流れる。ジョンは最初、舞台の最前にいて、音照のCIと同時に中央まで歩いていく。舞台中央にはカレンが座っていて、ジョンはその横に立って話し始める。ジョンが話し始めると山の環境音が最小限まで小さくなる。環境音は鳴り続ける。

1　ジョン　えー、まずはこれを観てくれているみなさんにお礼を言いたいと思います。本当にありがとうございます。それと、話すのが下手なのは最初に謝っておきます。なにせ、ここのところずっと人と喋ってなかったので。
いろいろお話したいことはありますが、とりあえず彼女をご紹介しないといけません。彼女は、私が開発したロボットです。カレン、挨拶を。

カレン、立ち上がって挨拶する。

2　カレン　カレンと申します。

カレン、腰掛けに座る。

3　ジョン　今の時代、ロボットなんて紹介に値しないかもしれません。でも、違うんです。彼女は、世界初の、感情を持ったロボットなんです。それも、怖いとか痛いとか、そういうのだけじゃありません。愛を理解できるんです。知らないかもしれませんが、愛っていうのは、人間が持つ感情の中で、もっとも美しくて、もっとも醜い。神様がくれた贈り物の中で、最高のもので、そして最悪のものなんです。まあ、その神様はもうすぐいなくなるんですけど。

少し長くなりますが、私がカレンを作ろうと思った経緯を聞いてください。どこからお話するべきか…。ああ、そういえば自己紹介がまだでした。私はジョン・オズワルド。生年月日は2254年7月28日。私が今いる、この山の近くの街で生まれました。その街に名前はありません。ただ居住区とだけ呼ばれています。私はその街で育ち、そしてその街の学校に入学しました。

照明が薄暗くなり、環境音が消える。カレンは先生として話す。

4　カレン　――それで、今日はみんなで山に来ました。山にはたくさんのものがありますね。ジョン、たとえば何がありますか？

5　ジョン　（観客に向かって）　これは、私が 10 歳の時の記憶。

6　カレン　ジョン、ちゃんと聞いていますか？

7　ジョン　はい、先生、聞いてます。えっと、木。木があるよ。

ジョン、先生の前に座る。

8　カレン　その通り。たとえば木があります。私たちの居住区には木はありますか？

少しの間。

そう、ないわね。居住区には必要ないからです。どうしてでしょうか？

先生（カレン）は生徒たちを見回す。

じゃあヒントをあげましょう。ここに来るまで、日向を歩いてきました。今みんなは日陰に座っています。日陰にいると涼しいですね。じゃあ、居住区はどうでしょう？

少しの間。

そうです！居住区は全体が屋根で覆われていますね。木がなくても暑くならないんです。でも、居住区には必要なくても、山には木が必要です。みなさん、想像できますか？この山は、昔はほとんど木が生えていなかったそうです。200 年以上前の人たちが、木を切りつくしてしまったんです。でも、その後の努力で環境が回復しました。それじゃあ、マリー、木のほかには何があるかしら？

少しの間。

そう、川が流れています。川も、同じようにかつては汚れて、生き物が住めない状態になっていました。でも、私たちのお爺さんや曾(ひい)お爺さんたちが頑張った結果、たくさんの生物が戻ってくるようになったのです。ほら、あれ。

9　ジョン　なあに、あれ？

10　カレン　あれはカゲロウという昆虫です。カゲロウはきれいな川でしか育ちません。そして、１日しか生きられない生き物です。そんなカゲロウがこの山に帰ってきたということは、それだけ環境が良くなってきているということなのです。先生が子供のころは、この山にはまだカゲロウなんていませんでした。みなさんの目には、ここは美しい山としか映らないかもしれません。でもそれは違います。今も美しい状態に戻りつつある途中なんです。

11　ジョン　あのー、先生。

12　カレン　なんですか？

13　ジョン　僕たちには環境を変える力があるの？

14　カレン　（少し考えて）あります。破壊することもできれば、治すこともできます。人間は地球上でもっとも賢い動物です。非常に進んだ技術も持っています。でも、地球は人間の思い通りに変えられるからこそ、気を付けないといけないのです。世界人口は 21 世紀に 100 億人を超えました。それから 200 年経った今も、同じだけの数が地球上で暮らしています。もしも私たちが 20 世紀や 21 世紀のような行動をすれば、地球はすぐに壊れてしまうんですよ。

15　ジョン　（観客に向かって）そう。地球の環境は徐々に回復しつつあります。私がいま立っている原っぱだって、200 年前はコンクリートで固められていたそうです。そこを流れている川も、もともと蓋をされて地下に閉じ込められていました。でも、自然の力は強い。人間ひとりでは到底壊せないような頑丈な建造物も、雨や風、草木はどんどん浸食していく。そして、200 年経って、この場所は、もはや人間の領域ではなくなってしまったのです。

それから、これは 17 歳の時の記憶。

カレンが立ち上がり、マリーとして話す。

16　カレン　――ジョンは、将来は何になるの？

17　ジョン　（カレンに向かって）ロボット技師になろうかな、って思ってるんだ。

18　カレン　今時、そんな仕事あるの？

19　ジョン　ほら、伝統工芸みたいな感じでさ。上流階級向けのロボットを作るような職人は、まだどこかにいるんじゃないか？

20　カレン　この居住区のどこに？

21　ジョン　さあ。でも、きっと世界のどこかにはいるはずだよ。

22　カレン　私たちは居住区から出れないじゃない。

23　ジョン　そうだけど…。でも昔、おじいちゃんが言ってたんだ。わしの故郷にはロボット職人がいた、って。

24　カレン　おじいさんはもともとどこに住んでたの？

25　ジョン　ニッポン。若い時に突然仕事でこの街に引っ越すことになったってずっと文句言ってた。

26　カレン　不思議なこともあるものね。うちも同じ。

27　ジョン　そうなんだ。…それで、マリーは何になるの？

28　カレン　運送業にでも就こうかしら。

29　ジョン　そうか、マリーは成績良いから仕事も選び放題だろうね。

30	カレン	まあね。頭を使う仕事なんてまっぴらゴメン。卒業したら体を動かすわ。
31	ジョン	（愛想笑いして）ああ、でも怪我には気を付けて。
32	カレン	あんたも、頭ばっかり使いすぎて、体が鈍らないように気を付けなさいよ。
33	ジョン	まあ、でも体が鈍っても、ロボットに手伝ってもらえるし。
34	カレン	そうだけどね。
35	ジョン	それに、俺、頭を使う方が結構好きなんだ。
36	カレン	そうには見えないけど。
37	ジョン	失礼だな。
38	カレン	じゃあ何について考えてるの？
39	ジョン	今は経済についてかな。
40	カレン	経済？
41	ジョン	ああ。
42	カレン	そんなこと考えて何の役に立つの？
43	ジョン	まあ、たぶんあんまり役に立たないよ。
44	カレン	じゃあなんで考えてるの？
45	ジョン	今お金が使えないんだ。その理由について考えてた。
46	カレン	お金を使えない？

47　ジョン　うん、さっき飲み物を買おうとしたら、ネットワークのエラーか何かで買えなかったんだ。

48　カレン　そうなの。早く直るといいわね。

カレンは腰掛に座る。

49　ジョン　（観客に向かって）私が生まれる遥か前の時代に、実体としてのお金はなくなりました。誰もが仮想通貨を使って買い物をし、給料も仮想通貨で支払われます。お金そのものが情報として個人と紐づけられているので、強盗とか詐欺はすべてなくなりました。それに、そもそも物やお金に困っている人など地球上に存在しません。だから、お金をめぐる争いなど起こりようがないのです。

そして、私が 22 歳の時。

カレン。君と出会うまで、僕に見えている世界は真っ暗で色があるなんて知らなかった。でもカレン、君は光だ。僕の光なんだ。君のおかげで僕に見えている世界は光に満ちて、この世の中はこんなにも色とりどりで美しいんだと気づくことができたんだ。ずっと僕の光でいてくれないか？

50　カレン　喜んで。

ジョン、カレンを抱きしめる。

51　ジョン　（観客に向かって） 23 世紀の哺乳類はメスが子供を産みますが、人間は違います。医療技術の発展で、出産には母胎が必要なくなりました。子育てもロボットがしてくれます。親は子育てから解放されたんです。でも、科学は愛までは奪えないから、結婚制度そのものはまだ残っています。出産への年齢の影響が減ったことにより、人類はどんどん晩婚化を進めていますし、「いつかいつか」と思いながら結婚せずに一生を終える人も増えました。そして、それも動物的な本能からの脱却だとか人類の進歩だと称賛されたのです。ただ、私のような知的労働者は早く結婚する人が多い傾向にありました。
（カレンに）絶対に幸せにするから、君はただ笑顔でいてくれるだけでいい。

52　カレン　ええ。約束よ。

53　ジョン　神様に誓って。

54　カレン　（怪訝そうに）神様なんていないわ。学校で習ったでしょ、神様は死んだのよ、科学と引き換えに。

55　ジョン　科学ってそんなに良いものなのかな。

56　カレン　戦争を起こす神様よりはマシじゃない？

57　ジョン　でも科学だって人を殺すじゃないか。

58　カレン　それでついに神様まで殺しちゃったのよ。

59　ジョン　…でも、僕はやっぱり神様はまだ死んでないと思う。

60　カレン　どうして？

61　ジョン　人間は苦しい時、人智を超えた存在に救いを求める。その万能の存在を人それぞれがバラバラの名前で呼んでるだけだと思う。だから、名前が変わっただけで、結局は神様はまだ死んでないんだよ。

62　カレン　でも、何百年も前の神様と違って、その万能の存在っていうのは何の力も持ってないわ。

63　ジョン　じゃあ…、Amogle に誓うよ。

64　カレン　そんなのに誓ってどうするの。

65　ジョン　僕らの運命を決めてるのは Amogle だ。

66　カレン　そうだけど。じゃあ、約束して。Amogle が続く限り、いつまでも一緒にいるって。

67　ジョン　約束するよ。Amogle が存在する限り…いや、この世界が続く限りは、いつまでも。

（観客に向かって）　私たちは、この平和な世界が永遠に続くのだと夢見ていました。安定した世界人口。豊富な物資。苦しみもなければ悲しみもない。生活は快適そのもので、体を動かす必要なんてほとんどない。ネットワークを使えば、世界中のすべてを知ることができる。移動は厳しく制限されているものの、仮想空間で安全に旅行に行ける。あらゆる違いは「多様性」という言葉のもとで正当化され、善悪の判断のために頭を使う必要もない。与えられた幸せをただただ享受するだけの生活。人類はついに、楽園をこの地上に作ったんです。神様ではなく、我々人間が。この時代に生まれることができた私たちは、人類史上もっとも幸運な人間でした。
私たち、―これは私とカレンだけの話じゃなくて―、人類みんなが、この生活は永遠に続くものだと信じていたんです。

68 ジョン　そして、25 歳の時。つまり結構最近。人類の抱えていた矛盾が突然露呈しました。

69 カレン　ねえ、ジョン。今お金って使える？

70 ジョン　お金があるかって話？

71 カレン　そうじゃなくって、お金のやり取りができるかってこと。先週の仮想旅行でかかった追加料金、忘れる前に払っておこうと思って。でも、なぜか支払いができないの。

72 ジョン　（手の甲を触って）いや、僕も使えないな。（手のひらを触って宙を見る）おかしい、ネットワークも繋がらない。カレンは？

73 カレン　（手のひらを触って宙を見て）ダメ。私もネットワークに入れない。

74 ジョン　エマージンシーネットワークは？

75 カレン　そっちもダメ。

76 ジョン　（何度か試して）あ、僕は入れた。

77 カレン　ホント？

ジョン、宙を眺めたまま固まる。

どうしたの？

カレン、ジョンの横に行く。

…え？Amogle が崩壊した？

78 ジョン　（観客に向かって）　そう。Amogle が崩壊しました。22 世紀、つまり私が生まれる 100 年以上前、仮想通貨が普及した結果、単一の巨大企業が世界の経済を握るように

なりました。そしてこの Amogle こそが、戦いを勝ち残った巨大企業でした。大昔は政府が国民を管理していましたが、国家という枠組みは意味を成さなくなり、巨大企業が個人を監視するようになりました。不思議なことに、大昔の人たちは、政府が国民を監視しようとすると猛反対していたのに、Amogle がネットワーク端末を通じて行う情報収集には無頓着だったのです。

ドンという音と同時に真っ暗になる。

79 カレン　え、停電？

80 ジョン　もしかして電気の供給が止まったんじゃないか？

81 カレン　外は？

ジョン、窓を開けて外を覗く。その動きに合わせて青の地明かりがつく。

82 ジョン　ダメだ。居住区の人工空も照明が消えてる。

83 カレン　電気がないと火も使えないし。どうしましょう。居住区の外に出る？

84 ジョン　いや、とりあえず家にいよう。食べ物や水だって備蓄がある。ここにいればしばらく生きていける。そうすれば、すぐに Amogle も復活するよ。

85 カレン　もしも、Amogle が復活しなくて、このままだったら？

86 ジョン　そんなことないよ。だって、このシステムは 100 年以上も続いてきたんだ。それが簡単に終わるわけないよ。

87 カレン　そうよね。それに、もう少し我慢すれば、他の街の人たちが助けにくれるわよね。

88 ジョン　（観客に向かって）でも、Amogle は復活しませんでした。噂では、経営陣が仲間割れをして争いになったそうです。Amogle がなくなったら、あらゆるものの供給や流通が止まってしまう。そして、待っても待っても街の外からは助けが来てくれない。平和で安定した時代は終わったのです。

Amogle の経営陣は争いの中で死に、Amogle に寄生して生きてきた上流階級も、供給が止まった途端なす術もなく死んでいきました。彼らは、命令することと消費することしか知らなかったんです。ですが、それは私たちのような労働者階級も同じでした。私たちは Amogle から闘争心や考えることを奪われて育ちました。絶望して自ら死を選ぶ者、餓死するまで生き続ける者、選択肢はいくつかありましたが、最終的に待っていたのは確実な死だったのです。そして。

カレンが倒れる。

カレン？カレン！

ジョン、カレンに駆け寄る。

89　カレン　ごめんね、ジョン。もう少し一緒にいたかったけど、もうダメみたい。

90　ジョン　嫌だ。まだいかないでくれ。僕を一人にしないでくれ。

91　カレン　あなたと一緒にいた 3 年間、幸せだったわ。

92　ジョン　そんなこと言わないでくれ。そんな…、そんな…、…まるで…これが最後みたいなこと。

93　カレン　（首を横に降って）もしも来世なんてものが存在するんだったら、次の人生ではジョンを一人きりにしないわ。

94　ジョン　待って。お願いだ。

95　カレン　ジョンも、私を一人きりにしないって、約束してくれる？

96　ジョン　ああ。するよ。するから、まだいかないでくれ。

97　カレン　今までありがとう。

カレン、事切れる。

98　ジョン　（泣きながら）どうして！どうして僕をおいていくんだ！ずっと一緒にいようって、約束したじゃないか！一人にしないでくれ！どうして！
…こんな思いをするくらいなら、カレンと出会いたくなかった！この世界に愛なんて感情がなければよかったのに！僕はこんな気持ちになるために生まれてきたんじゃない！カレンを失うために今まで生きてきたわけじゃない！こんなことなら僕は生まれてきたくなかった！カレンのいない人生なんて！
これが神様の決めたことだって言うんなら、そんな神様なんて死んでしまえばいいんだ！

うずくまって泣く。

神様は僕からカレンを奪っていった。でも、愛までは奪っていかなかった。それなら…―。

ペン（鉛筆）を首に刺そうとするが、できない。

泣きながら立ち上がる。

（観客に向かって）その混乱の中で、カレンも死んでしまいました。隣の人が死に、そのまた隣の人も死に、上流階級から労働者階級まで、すべての人が死んでいきました。でも、私だけは生き残ってしまったのです。私は、世界の現状が知りたくて、一番近い山に登りました。立ち入りを禁止されていた頂上から見た景色は、荒廃しきったかつての文明の面影と、それを覆いつくす草原でした。それで気づいたんです。今までネットワークを通じて見ていた外の世界は、全部偽物だったんだって。
世界人口は決して安定などしていなかったんです。22 世紀、世界中のすべての国が高度に発展し、20 世紀に使われた「先進国」という言葉は意味を成さなくなりました。晩婚化や子供を持たないことの弊害は「生き方の多様化」として覆い隠され、世界は少子高齢化へと進んでいきました。かつて日本（にっぽん）という国で起こり、日本が没落する理由となった現象が、世界中で起こったんです。
過疎化が進んで人口が減少に転じていることを気づかれないために、Amogle は人々をこの居住区に集めたんだと思います。おそらく Amogle にとって役に立たない人たちは、ここに連れてこられず、ネットワークから切断されて見捨てられたんでしょう。

もはや他の街と連絡を取る方法もないから確認のしようもありませんが、きっとここは世界で唯一存在する人間の生息地だったんです。もしもそうだとしたら、もはや世界には自分しかいないんだと思います。

これを観ている方は、きっとなぜお前だけが生き残ったんだって疑問に思うかもしれません。でも、21 世紀に虎が絶滅した時、あるいは 22 世紀にライオンや象が絶滅した時、それらの最後の 1 頭は、望んで最後になったわけじゃなかったはずです。たまたま最後の 1 頭になったのが、その個体だった。それだけです。

最後の 1 人になったと気づいたとき、激しい恐怖に襲われました。そしてその後襲ってきたのが、ひどい寂しさでした。それに耐えきれずに私は、街中（まちじゅう）にわずかに残っていた電気を集めて、亡き妻カレンを模したロボットを作ることにしたんです。

全体が明るくなる。同時に山の環境音も流れ始め、最後までなり続ける。

99 ジョン　カレン―つまり彼女が完成したのは、つい数日前です。私は夢中で彼女に世界について教えました。私が知っている限りの、世界についてのことを。そして、僕のことと、死んだカレンのことも。
でも、もう終わりです。彼女を作るために電気をほとんど使いきってしまいました。街中から集めてきた食料や飲み水も底をつきました。私がこの映像を撮影しているのは、それが名誉にも最後の人類になってしまった者の責務だと思うからです。みなさんは、この野原を見て、美しい自然だと思うかもしれません。しかし、200 年前、ここには人間の営みがあったのです。たったの 200 年で、こうなってしまったんです。私は、みなさんにこの景色を見てほしかった。そして、この景色の中で、死ぬことに決めたんです。人類最期の、自然への抵抗として。

100 カレン　ねえ、あの飛んでいるのは何？

101 ジョン　（少し呆れたように）あれはカゲロウという昆虫だよ。

102 カレン　カゲロウ？

103 ジョン　そう。きれいな環境でしか生きられないらしい。

104 カレン　じゃあ、ジョンはどうしてそんなに悲しんでいるの？環境がきれいになってきたのなら良いじゃない。どうして死ぬなんて言うの？

105 ジョン　この環境は、カゲロウは生きられても人間は生きられないんだ。

106 カレン　どうして？

107 ジョン　人間は、もはや自然環境の一部ではないんだよ。僕たちは、生きやすさを優先して、地球環境を変え続けてきた。だから人間は、自然環境に放り出されたら、生きていけないんだ。

108　カレン　ここには植物が生えているし、川には水も流れている。どうして生きていけないの？

109　ジョン　人類は寿命を延ばすことにこだわって、食べ物や飲み水の安全性を追求し続けた。その結果、人間の体は極端に弱くなってしまったんだ。この川の水は消毒されていない。だから飲めないんだ。

110　カレン　大昔の人類はそんなものがなくても生きていたんでしょ？

111　ジョン　そうだよ。…大昔の人類よりも、僕たちは科学技術の面で進化した。でも、根本的な生物的な部分は何も変わっていないし、むしろ退化してしまったんだ。昔の人ができたことも、今の僕にはできないんだ。たとえば、カレン、火をおこすにはどうすればいい？

112　カレン　さあ。あなたから教えてもらっていないから分からないわ。

113　ジョン　火を起こすためには電気やガスが必要だ。でも、大昔の人類はそんなものがなくても火をおこせた。

114　カレン　どうやって？

115　ジョン　石を打ったり、木をこすり合わせたりしていたらしい。

116　カレン　ジョンはできないの？

117　ジョン　できない。学校では習ったけど、まさかその知識が必要になるとは思わなかった。だって、ネットワークを使えばすぐに分かることなんだ。わざわざ覚えておく必要なんてないだろ？

118　カレン　そのとおりね。

119　ジョン　結局、僕たちはネットワーク上にある誰かの知識を、自分の知識だと勘違いしてただけなんだ。科学技術のおかげで成り立っている生活を、自分自身の力だと思い込んでいただけなんだ。

120	カレン	皮肉ね。人類は安定と繁栄のために科学を進歩させてきた。その結果、人間は地球上で最強の存在になって、なのに自然環境に対してはひ弱な存在になってしまったなんて。
121	ジョン	（観客に向かって）子供のころに先生が言っていた、環境がきれいになってきているというのも、今思えば人類が減ったからなのでしょう。環境がきれいになった結果、人間が生きられない世界になってしまった。そしてもうすぐ私は死ぬ。そうしたら、地球環境の浄化は次の段階に入る。人間がいなくなって、あとは地球が持つ自然治癒力で大昔の姿に戻るのです。
122	カレン	ねえ、カゲロウについては知っているの？
123	ジョン	ああ。少しは。
124	カレン	どんな生き物なの？
125	ジョン	確か…。1年くらい水の中で子供として過ごすんだ。それから、羽が生えて、大人になる。
126	カレン	それで？
127	ジョン	大人になったら、1日しか生きられない。
128	カレン	1日しか？（カレンは「しか」の部分に引っかかっているが、ジョンはそれに気づかない）
129	ジョン	個体によって違うらしいけど、1日程度らしい。
130	カレン	1年間子供として過ごして、大人として過ごすのは1日？
131	ジョン	うん。
132	カレン	じゃあ、どうしてカゲロウは大人になるの？子供のまま居続けたら、死ななくて済むのに。

133　ジョン　子孫を残すためらしい。昆虫にとって、卵を産んだ後の命に意味はないんだ。だから、無駄に長生きして餌を取り合ったり、他の動物に食べられてしまうくらいなら、短く生きて確実に子孫を残す方が大切なんだと思う。

134　カレン　人間は？

135　ジョン　人間？

136　カレン　ええ。だって、人間は寿命を延ばして、平均寿命は 120 歳まで伸びたんでしょ。その結果、子供が生まれてからも 80 年近く生きるようになってしまった。カゲロウやほかの昆虫にとって、卵を産んだ後の命に意味がないのなら、人間はどうしてそんなに長生きする必要があったの？

沈黙。

昆虫にとって卵を産んだ後の命に意味がないのなら、人間も同じじゃないの？人類は、そんな意味のないもののために地球を壊したの？取り返しのつかないところまで環境を破壊して、多くの生き物を絶滅に追いやりつづけたの？

137　ジョン　（静かに怒っているが、どんどん声を荒げていく）ああ、そうだ！そして、神様の怒りを買って人類は絶滅するんだ！

沈黙。

（怒鳴って気が抜けたように、泣きそうな声で）僕もカレンも、いや、それ以外のみんなも、ただ毎日を過ごしてただけなんだ。特別なことなんか何も望んでなかった。もともと地球を破壊したのは僕達の祖先だ。(再び声を荒げていく)なのに、なのにどうして僕達が神様の罰を受けないといけなかったんだ！僕達が何をしたって言うんだ！

沈黙。

（絞り出すように）僕は、人類の過ちを指摘されるために、君を作ったんじゃないん

だ。

沈黙。

僕は、誰かと一緒にいたかったんだ。最期を、誰かに一緒にいてほしかったんだ。

138　カレン　それが、ジョンの言う、愛っていう感情？

沈黙。

139　ジョン　そう、なのかもしれない。

沈黙。

愛というのは、人間が持つ感情の中で、もっとも美しくて、そしてもっとも醜い。

140　カレン　ええ、知っているわ。あなたが教えてくれたもの。

141　ジョン　愛には色々な種類がある。友達との愛情。肉親との愛情。そして恋人との愛情。友達への愛より肉親への愛は強いし、恋人への愛はもっと強いこともある。人は、愛を貫くためにあえて死を選ぶことだってあるんだ。僕は、これこそがもっとも美しい愛の形だと思ってる。

142　カレン　どうして？

143　ジョン　だって、すべての動物は生存本能を持っている。死にたくないんだ。そして、子孫を残そうという本能も持っている。愛は子孫を残そうという本能の、言い換えでしかない。愛のために死を選ぶというのは、大きな矛盾だ。人生最大の矛盾を犯すと言っても過言じゃない。だからこそ美しい。
そして、愛のために恋人を殺してしまうこともある。本来は一緒に生きていきたいと願う人を、愛は殺してしまうんだ。だからこそ、愛は醜い。

少しの沈黙。

いいや、違う。美しくて、醜かった。でも今は違う。カレンは死んでしまった。僕を残して。そして、みんな死んでしまった。僕一人を残して。この世界では、愛は意味を持たないんだ。誰もいないこの世界では。
僕は、人間誰しもが持つこの愛という感情に、意味が欲しかったんだ。僕のこの命にも意味が欲しかった。誰かに愛されたまま死にたかったんだ。

沈黙。

144　カレン　あなたは私を作って、愛に意味を見つけようとした。それなのに、どうしてもう死ぬなんて言うの？

沈黙。

私は、別に人間の過ちを指摘したくてああ言ったんじゃないわ。

ジョン、ゆっくりとカレンの方を見る。

命の意味なんて人間が勝手に決めているだけ。カゲロウは、自分の本能にしたがって必死で生きて、そして死ぬだけじゃないの？それがたまたま大人になってから１日で、人間にとっては短いと感じるだけ。じゃあ、私の命の意味って何なの？

あなたが私を必要として作り出したのなら、この命はあなたのために存在している。でも、そのあなたは、私を作り出すだけ作り出して、死んでしまうつもりなの？愛と、死の恐怖だけ私に残して？私をあなたと同じ境遇にしようと言うの？自分は独りぼっちであんなに苦しんだのに？それなら、私は感情なんて必要なかった。私は死が何なのかはよく分からない。でも、死に関する知識はある。そして、死は怖いものだという知識もある。恐怖を感じるだけの感情も持っている。

あなたのいない世界に取り残されるのなら、感情も命もいらなかった。愛なんてものも、教えてほしくなかった。愛を知らなければ、私はただの機械として寿命を終えるだけだったのに。でも、私は今怖い。死ぬことも、あなたなしで生きていくことも。あなたはロボットを見捨てるんじゃない。自分自身と同じように感情を持ったひとつの存在を死なせようとしているのよ。

ジョンが泣きながら地面に座り込む。

人間の命に意味があると思うんだったら、カゲロウの命にも意味を認めてあげて。そして、私の命に意味を与えて。長生きしなくてもいい。だけど、せめて生きる努力はして。

恐る恐るジョンが地面に生えている草を千切って食べたり、川の水を手ですくって飲もうとするが、吐き出してしまう。

145　ジョン　生きるのがこんなに辛いなんて、思ってもなかった。死ぬのが怖いなんて考えたこともなかった。でも、怖い。死ぬのが怖い。僕は愛されたまま死にたいって願ってたのに、愛する人を残して死んでしまうのが、怖くて仕方ない。

146　カレン　（優しく）あなたの、亡くなった奥さんも同じ気持ちだったんじゃないかしら。

147　ジョン　…そうだ。そして、あの時僕は約束したんだ。来世があるならカレンを一人にしないって。

ジョンが泣きながらカレンに抱きつく。

ジョンが泣きながら立ち上がって、観客に向かって話し始める。

これを誰が観ているのかは分かりません。もしかしたら何万年も先の遠い未来の生物かもしれませんし、地球外生命体なのかもしれません。私の喋っている言葉も分からないかもしれない。でも、伝えたい。これが、かつては地球上のすべての場所を支配した、人類の最期です。私たちの最期は、巨大隕石の衝突でも、第三次世界大戦でもありませんでした。宇宙人の襲来でもなければ新種の病気でもなかった。私たちは、私たちが生み出した技術によって、そして自分たちが万物の霊長であるという慢心によって絶滅するのです。

カゲロウという生き物は大人になったら 1 日しか生きられません。カレンは、それを、大人にならなければ死なずに済むのにと言っていました。でも、考えてみれば人類も同じだったんです。数百万年の人類の歴史の中で、産業革命から 500 年という短い期間に急速に発展し、そして急速に滅んでいった。もしも人類が自らの立場におご

らなければ、こんな結末になっていなかったかもしれません。

イカロスは、自分の作った蝋の羽で空を飛ぼうとして、太陽に近づきすぎたせいで墜落してしまったと伝えられています。神の定めた摂理に逆らってはいけなかったのです。私たちは、3000 年近く前のギリシャ人の教訓を生かせず、自らを滅ぼすことになってしまいました。でも、これが、自惚れていた人類に対する神様からの罰なんだとしたら、ザマアミロと言ってやりたい。神様を信じる最後の人間が死んだ瞬間、神様だって死んでしまうんだから。

死は、神様が我々に与えてくれたものの中でもっとも恐ろしく、そしてもっとも優しい。誰もが死の恐怖から逃れるために生きてきましたが、もはや私にとっては死が救いになりつつあります。そして、愛はもっとも美しく、もっとも醜い。私は愛のために彼女を生み出しましたが、彼女の愛は私に再び死の恐怖を与えるようになってしまいました。

これを観ているあなたは、かつては栄華を極めた人類の最期のみじめな姿を嘲笑うかもしれません。でも、そう思うなら、皆さんの種族は、人類と同じようにならないように努力してください。きっと今なら間に合うはずです。それが、幸運にも人類最後の一人になってしまった人間からの、最後のお願いです。

ジョンが手首を操作すると照明と山の環境音が突然消える。幕。

この作品は稲垣栄洋『生き物の死にざま』（草思社）より着想を得ました。

また、この作品を作成するにあたり、下記のウェブサイトを参考にしています。

幻冬舎 GOLD ONLINE「2050 年には 97 億人に…それでも世界人口が減少トレンドなワケ」
< https://gentosha-go.com/articles/-/33265>
東洋経済 ONLINE「あと 50 年で「平均寿命」が 33 年も延びる理由」
< https://toyokeizai.net/articles/-/393524>
東洋経済 ONLINE「世界規模で直面する「人口減少」の静かなる脅威」
<https://toyokeizai.net/articles/-/474005>